


審査結果報告書

2022年 2月 2日

主査 氏名 村雲芳樹 

副査 氏名 佐々木 玲一郎 

副査 氏名 草野 了史 

副査 氏名 橋本 克彦 

1. 申請者氏名 : DM18014 添野 孝文

2. 論文テーマ :

CD33+ Immature Myeloid Cells Critically Predict Recurrence in Advanced
Gastric Cancer
(進行胃癌における CD33 陽性未成熟骨髄細胞の意義)

3. 論文審査結果 :

本研究は、治癒切除された進行胃癌における CD33 陽性未熟骨髄細胞の浸潤の程度と臨床病理学的因子、予後との関連を解析したものである。CD33 陽性細胞の浸潤が多い症例では、有意に再発率が高いことを明らかにした。これにより、胃癌原発巣の CD33 陽性細胞の浸潤の程度が、再発予測のバイオマーカーとなり得ることを示した。審査会では以下の点について協議を行った。

- ・臨床病理学的因子と関連がないのに再発に差がでるのはどのような機序か。
- ・CD33 は治療のターゲットとなり得るか。
- ・生検検体を用いて CD33 発現細胞の検討は可能か。
- ・再発病巣でも CD33 発現細胞の検討を行ったか。
- ・この cut-off 値が他の症例群にも適応できるか、検証が必要である。
- ・CD33-high 群と-low 群での overlap がかなりあるので、predict は過剰評価では。
- ・CD33 陽性細胞数と血管新生との関連を調べるといい。
- ・CD33 の評価方法が適切かどうか。
- ・論文中の文言の再確認を。

本研究は、胃切除検体中の CD33 陽性細胞の浸潤程度が予後に大きく関与するという新たな研究データを示したものであり、胃癌の臨床研究において大きなインパクトを与えるものである。よって、博士の学位に相応しい研究であるとの結論に至った。